令和５年度　第４回静岡県立浜北西高等学校学校運営協議会　議事録

１　日時　令和６年２月７日（水）　午後２時から午後４時
２　場所　静岡県立浜北西高等学校　応接室
３　出席者（委員、敬称略）
　梅林欽哉（元小学校・中学校管理職）、横田めぐみ（横田整形外科婦長）、
　金島徹（浜名区調整官）、明保晴香（浜北国際交流協会理事）
　学校関係者
　　邑田聡一（校長）、戸田敬之（副校長）、伊藤正徳（教頭）、
　　山田哲也（事務長）
４　議事
（探究発表会参観後
(1) 開会
(2) 校長挨拶
(3) 生徒アンケート、保護者アンケートについて
(4) 授業評価について
(5) 令和５年度学校自己評価結果について
(6) 令和５年度学校関係者評価に関する意見交換
　学校運営協議会委員からの意見や質問は以下の通り。
・（本日の探究発表会を見て）面白かった。生徒にやらされ感がなかった。ただやることがなくて暇をしている生徒がいた。
・（本日の探究発表会を見て）楽しかった。こちらの質問に対して生徒がむきになって答えていたのが面白かった。
・昨年度もそうだったが保護者アンケートの「ホームページや学年・学級通信などで保護者への情報提供をきめ細やかに行っている。」が 71.7%と少し低い。それに対して、学校自己評価ではホームページ等の広報については「A」となっている。保護者の評価と学校の評価にズレがある。
・私学はホームページやマスコミを使っての宣伝が上手。
・本校のホームページの更新等昨年よりよくなっていると思うが、インスタグラムなど社会のＳＮＳの進歩のスピードが速く、学校と社会では差がある。このことは行政も同じである。行政もいろいろ情報を発信しているが。
・やはり「生徒の顔」が大事である。いくらＳＮＳが発達しても。これをどのように発信していくかが大事である。
・普段の授業を見せてもらったが、一生懸命やろうとする生徒たちの姿。これをいかに家庭学習に繋げられるか。
・個々の生徒に学力差がある。宿題を一律に同じものをやらせても、学力上位

の子も下位の子も不満足。個々の生徒に合わせた課題を設定し、生徒たちに選ばせるのがいいのでは。先生たちは大変になるが。
・やる気っていうのは自己肯定感だと思う。これが大事。認めてあげること。
・家でやってこいと言っても、できない子がいる。グループでやればできる。
・「(スケジュール) 手帳を使う子は学力が伸びる」とあったが、先生の指導で手帳を使っているのか、生徒が自主的に使っているのか。
・生徒アンケートの問い 33 番に「手帳を活用して～」というものがあるが、なぜ「手帳」という言葉が入っているのか。
・手帳をアプリにしたらよい。
・自分が手帳を使うのは性分である。手帳は必要な人が使えばよい。
・(手帳は) 自分なりの書き留め方がある。
・Google などで本校の評判を見てきた。特に悪いものはなかった。
・今日みたいなの (探究発表会) は励みになる。
・今年の進路はどうか。国公立大学に何人ぐらい合格しそうか。
・就職はどうなっているか。
・医療系に進学する生徒は多いか。
・卒業して働く。ここが大事。高校を卒業してどういう人生を歩むか。
・企業の人は、自分たちと一緒にボランティアに参加している高校生を誘う (スカウト)。
・生徒の自転車の運転が危ない。自転車は夜暗いし危ない。夜は光るようにしてほしい。
・今日の発表会はうれしかった。生徒たちの大人への対応が上手い。上手くなった。こちらの問いかけに対して、切り返しができる。かなりの技量がないとできない。生徒たちの対応は、明るくてよい。地元の学校だから、いい意味での縁を大事にしてほしい。
・浜北西高の先生と生徒のコミュニケーションを大事にしてほしい。今までの積み重ね。新しいことに取り組むのは大変。
・この学校にサロンがほしい。
・アンケートの文言から、「手帳」を除いた方がよいのでは。
・現在では、大学も企業も生徒の取り合いになっている。大学は入れる、就職はできる。競争意識が沸く状況ではない。
・ここの生徒はうまく導くと化ける (成長する)。知らないだけ。
・(探究発表会について) 生徒たちが自分たちで問いを立てた。ここが大事である。

(7) 閉会